

地域密着型サービス自己評価票

- 。 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 20年 8 月 8 日
事業所名	グループホーム ほのほの広場
事業所番号	2373900519
記入者名	管理者 氏名 杉浦 文彦
連絡先電話番号	0587-21-5293
	(1 F)

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスという事を職員全員が理解し、それを担う理念づくりを目指している	地域や利用者のニーズ等によって理念を変更することも考えていきたい
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ホールや職員の名札の裏に掲示している。 ・いつもと同じ馴染みの顔・ゆっくりと楽しく ・暮らしの喜び 上記の3つが理念であるが、まとめたものとしてホームの名称である「ほのほの広場」がある。ほのほのとした暮らしが前提にある。これが実施できるように努力していきたい	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念が形式的にならないように、前提で「ほのほのとした暮らし」がある。名前と一緒にホームでの暮らしの雰囲気を広めていきたい	理念だけでなく認知症やグループホームへの理解を進めていきたい
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方から農作物の差し入れがある。散歩時に挨拶や話をしたりするようにしている。	より一層の理解と親睦を深めていきたい
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会費の納入だけでなく、活動に少しずつ参加できるようになった。中学生の職場体験の受入れも行っている。 夏まつりなどの行事に協力するようになった	町内会活動は施設というより、個人としての関わりが強いように思えるので、是正していきたい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいき たい内容 (すでに取組んでいること も含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		<p>全員で一度にミーティングを行うことは難しい、職員の中で理解に差ができないようにしていきたい</p> <p>見直し、改善は年に1回の事ではなく継続的に行っていきたい</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている</p>		<p>メンバーからの忌憚のない意見が出やすいような体制作りとグループホームでの生活や認知症への理解を深めていきたい</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>すべての職員が理解し対応できるようにしていきたい</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		<p>慣れや親しい関係を誤解して、利用者さんの心を傷つける発言をしていないか見直していきたい</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいき たい内容 (すでに取組んでいること も含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		<p>繰り返し説明を行っているが、理解が不十分なこともある。機会を見つけ精力的に行っていきたい</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>利用者さんの意見や不安、不満が特定の職員の中で埋もれないよう、カンファレンス等で話し合っていく</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所で利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		<p>体調不良時等の緊急時には電話連絡を行っている。ほとんどの家族の方は月に2度以上見えるため、その時に報告している</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>家族間同士でも話し合えるような機会作りを心掛ける。外部者に安心して意見を言える機会を作るように心掛けたい</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		<p>日頃からコミュニケーションを図るように心掛けている</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		<p>体調不良時の入居者さんがいた時や職員の傷病等あったが、職員一丸となって対応ができた。夜勤者は夜勤専門ではなく日中のシフトも入っている。馴染みの関係が崩れないようなシフト作りを心掛けている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいき たい内容 (すでに取組んでいること も含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に職員はユニット毎に固定している利用者さん、ご家族さんへの信頼感を築くためにも、馴染みの職員が対応することが重要と考えており、職員の退職が無いよう心掛けている		
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながら学べるよう、個々の能力経験に合わせたOJTを心掛けている。 外部の研修、講習の参加ができるようにしている		講習を受けたものだけでなく、学んだことを他の職員全員にもきちんと伝えられるようにしてはならない
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知GH協会への参加、昨年と比較して身近な地区の事業者のみで集まる機会が増えた。 管理者研修等の交換研修制度の活用		管理者以外のスタッフも他施設との交流に参加できるようにしていきたい
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が利用者さんと離れ気分転換できるような休憩室を設置してある。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	労働基準法に則った労働条件の確保をしている。 資格取得等は職員で自発的に非常に精力的に行われている		資格取得後の技能を生かした労働環境づくりを検討しなくてはならない

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいき たい内容 (すでに取組んでいること も含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまで本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族や本人、前施設から情報を集め本人の求めていることや不安なことを理解しようとしている</p>	<p>入所前に通所サービス等を行い、本人の生活状況や思いの把握をできるようにしたい</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまで家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>これまでの家族の苦労や今までのサービス状況などの情報を詳しく聞くことにしている。また、会話をする中で信頼関係の構築につなげる。</p>	<p>信頼関係ができる前の段階では、不都合な情報は隠されることが多い、早期に信頼関係ができるようにしていきたい</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>利用を前提に話を進めるのではなく、他のサービスや他の施設の利用も検討して話をしている。</p>	<p>包括支援センターの利用をもっと活用していきたい</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気や徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>サービス利用開始時ではご本人も生活の変化や家族と離れられることで不安になられることも多いので、家族の方にできるだけ訪問していただくようにしている。</p>	<p>通所サービスやショートステイの利用も検討していきたい</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>支援する側、される側と分けるのではなく、できるだけ利用者さんにも協力していただく事により、お互いが協働できるようにしている。夜勤者の体調を利用者さんが心配されるなど、職員が心配されることも必要</p>	<p>介護する側というだけでなく、利用者さんを人生の先輩という意識を持ちともに支えあう環境づくりを目指す</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいき たい内容 (すでに取組んでいること も含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	外出など家族の方も介護に参加できるよう な関係作りを心掛けている。		施設に任せきりにならないよう、家族とのつながりが断たれないように、本人を支えていくために協力関係がもっとできるよう に説明しているが、家族により差がある
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	施設に任せきりにならないよう、家族とのつながりが断たれないように、本人を支えていくために協力関係がもっとできるよう に説明しているが、家族により差がある		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	継続的に施設外の友達と電話等で 連絡を取られている方もいる		生活の延長が維持できるよう に努力していきたい
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者間の仲の善し悪しや関係を職員は把握している。 利用者間で 生活の手助けをされる方もいる		これからも、職員が中を取り持って円滑な生活や人間関係を持てるよう援助していきたい
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院等で サービスが終了しても継続的に面会に行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいること も含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人や家族とのコミュニケーションを多くして、一人ひとりの暮らし方を検討している</p>	<p>穏やかに毎日を過ごして頂く事を念頭に置き、本人にとってどのように暮らす事が最良なのか、家族を交えて検討している</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>ご家族や本人、ケアマネなどから情報を収集している</p>	<p>入所時だけではなく、その後の暮らしの中でも継続的に情報収集を行っていく</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>個別の生活を心掛けているが、食事は皆でそろって摂られる事を主眼に置くと夜間の排泄時間まで合一してくる。</p>	<p>生活のリズムにこだわるのではなく、個々の個性を發揮できるような生活にしたい</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>個人で作るのではなく、皆で意見交換をしたのちに作成する。多方向の視点から見る計画を</p>	<p>以前のものやフォーマットをなぞるのではなく個人のその時の計画を作成していく</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>本人や家族と話し合い、現状に合う介護計画を立てる</p>	<p>状況変化の際に、職員が同じレベルで対応できるようにカンファレンスを行い、介護計画の見直しを行う。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいること も含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、健康状態の把握に努めている。その日の状態がすべての職員が確認できるようにしている 健康状態の確認はデータを取って、すべての職員に示してる		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族との外出は当日知らされることが多いが、柔軟に対応している。事業所の鍵は開放しているので、気軽に面会に来られる		医療連携体制の検討
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進委員会を活用し、市や地域、家族との話し合いをしている		防災や地域行事の参加のみだが、それ以外の催しの参加していきたい
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のお祭りに参加したり、子供たちとの交流会を開いたりしている。		もっと、地域の人たちとの交流を深めて地域あつてのグループホームを位置づけていきたい
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括センターにも運営推進会議の参加を呼びかける		包括センターにも運営推進会議の参加を呼びかける

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいき たい内容 (すでに取組んでいること も含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は2件あり、双方ともに訪問診察もして頂いている。主治医の選択は専門性と家族、本人の希望にて。両方に診察していただいている方もいる		専門性のある分野以外は協力医療機関にての対応が多い。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医が協力医療機関にある 毎月定期的に来ていただいている、それ以外にも電話相談や診察も行っている		認知症の状態によっては、総合病院を診察する場合もある
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	職員で 准看護婦が3名いる		協力医療機関の訪問看護を利用することもある
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、本人の支援に関する情報の提供も含め、見舞うことにしている。また退院時に向けての情報交換を家族、病院を含め行っている。長期入院はADLの低下があるため、早期退院をお願いしている		病院は個人情報保護の面から家族以外に本人の情報を伝えない場合があるので、家族からの情報伝達の漏れがないよう注意したい
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	出来るだけ終末期まで 診えるように日頃から家族や病院との連携を深めている		重度化に伴う確認書を作成し、事業所の行える最大のケアについての話し合いを行う。 本人(家人)により終末期の希望が異なるので 対応を検討する
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医と相談して、安心して終末期を迎えられるように家族と話し合う 日曜日などの休診日も対応していただいた		急変した場合、すぐに対応できる医療機関と密に連携を深めて対応している

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいき たい内容 (すでに取組んでいること も含む)
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他施設に移られる場合は、生活情報等を記載し提供している	移動される場合は病院が多いが、他施設に移られる場合でも同じように対応していく
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人のプライバシーに関することは他の利用者さんがいるところでは、配慮している。	他の家族や外部に対して本人のプライバシーにかかわることを話さないよう徹底している
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自主的な行動は難しい方もいるため、その方は複数の選択から選んでいただけるようにしている	無条件に利用者さんの希望を聞くのではなく、話し合ってから決めるようにしている
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり別行動を採られると対応ができない為、ある程度固まっていたりすることになる。	本人の希望が、1日中寝ていたい人もいる。むやみに本人の希望を聞くのではなく配慮して行う
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問美容院を定期的に利用している。各々本人の希望の理容、美容を行っている。化粧、髪油、カール等の各人の希望がある	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいき たい内容 (すでに取組んでいること も含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>酒、煙草は病気のため止められている。今は訴えられることはない。</p>	<p>おやつは他利用者の事も配慮して食べていただいている。</p>
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように支援している</p>	<p>おむつの使用をできるだけ減らせるよう、時間誘導を行い対応している。 時間だけでなく、本人の行動や発言から判断できる</p>	
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>安全面も考え日中の職員の多い時間で行っているが順番はできる限り、希望を聞くようにしている。 希望される風呂の順番が重なることがある</p>	
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>入床時間は一人ひとりに合わせ消灯時間は特に決めていない。 睡眠薬はできる限り使わないようにしている</p>	<p>日中でも体調の様子を見て臥床していただいている</p>
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>レクリエーションばかりではなく、庭仕事、手仕事等本人の好みに合わせた仕事も手伝っていただいている。 実際に体を動かす手伝いだけでなく、知恵や知識からのお手伝いもある</p>	<p>仕事の手伝いについては、行える人が偏ってしまう。それ以外の協働の仕方もある</p>


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいること も含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に 応じて、お金を所持したり使えるように支 援している	お金のしまい場所を忘れてしまう事が多いため、 本人が持っているお金はすぐに建て替えられるよ う、少額にさせていただいている		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで 過ごさずに、一人ひと りのその日の希望にそって、戸外に出かけ られるよう支援している	日中晴れていれば、車椅子の人も含め屋外か散歩 に出るが、夏場は回数が少なくなる		近くの店が無くなってしまったため、歩行してい ける店がない
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けな いところに、個別あるいは他の利用者や家 族とともに出かけられる機会をつくり、支 援している	家族に働きかけて外出の支援をしている。 特別な外出もあるが、全員が特別に行くのは難し い		利用者さんの他県の故郷に行ったことがあるが、 高速道路以外の場所では、車椅子用のトイレの確 保が難しい。その時の人員の補充や旅行時の人員 の増強も難しい
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をし たり、手紙のやり取りができるよう に支援を している	家人への手紙や絵手紙の先生への手紙の交流があ る 入居前の隣人と定期的に電話で 話されている方も いる		電話で の会話が他の利用者さんや職員に聞こえな いよう配慮している
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人 たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地 よく過ごせるよう工夫している	玄関に施錠はしていない。 介護記録には記入してあるが、初見の人以外は面 会記録表に書いてもらうことはせずに、制約感の ない面会を心掛けている		家人の面会は多く、平日で も2~3件ある
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、身体拘束を しないケアに取り組んでいる	身体拘束は基本的にしていない 今現在は点適時に動かれる方でも拘束はしてい ない、スタッフを追加して見守りや手を握って安心 させていただいているが、必ずできるわけではな い		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいき たい内容 (すでに取組んでいること も含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の鍵をかけることはない 夜間の夜勤者のみになってから施錠を行う		利用者さんの外出の癖や時間等に配慮している 出て行かれるのは決まった人なので注意している
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	記録を書くときはホールにて行っている 夜間も職員はホールにて異音等があれば、すぐに対応できるようにしている		記録の記載に没頭して利用者さんの安全確認が怠るような事態は避けなくてはならない、優先順位を考える
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	医薬品は事務所にて管理、薬品等は場所を決めて保管してある 包丁は目につくところには置いていないが、ハサミは使用したい人もいるため、すぐに取り出せるように置いてある		利用者さんの状態により薬品等を移動している
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	夜間の巡視時間の間隔は決めてあるが、それに固執せずに利用者さんの状態によって対応を変えている。		ヒヤリハットを作成しているが、職員によってどのような状態を記入するかの基準が異なる
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルや訓練を行っているが、実際の緊急時に行えるかが難しい		応急処置はあくまで臨時のものであり、それに固執して手遅れになることがないように、専門家への連絡も重視している
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常持ち出し具の準備や、避難訓練を実施している 地域の方と話し合い、緊急時の協力体制をお願いしている		非常持ち出し具は持ち出せる量や重量を考慮しているので 推奨量（水1人3ℓ×20人×3日＝180ℓ）という量は無い

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいき たい内容 (すでに取組んでいること も含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		薬が変更になった時は様子観察し、業務日誌に記入し職員が常に気をつけるようにしている
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		食事を工夫しても、自然排便は難しい方もいる
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		食べる意欲がわくように調理や盛り付けに工夫する

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいき たい内容 (すでに取組んでいること も含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成して学習し、予防対策に努めている。		一度作った取決めをそのままにせず、新しい知識や技術を更新する
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の残りは鮮度を確認し、冷凍または処分している。冷凍したものも日付を記入している 台所や水回り清潔に保つよう清掃、消毒している		清潔なのはもちろんだが、あまり神経質にならないよう心掛けたい
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に施錠はしていない。 明るく優しい街の特徴に合わせて植木や花を植えている 出入り口ではなく玄関をイメージしている		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活の音や匂いが感じられるようにしている。 食事や風呂でも季節の行事や象徴するものをお出ししている		施設ではなく家の延長という事を念頭に置いて対処していく
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールだけでなくホールの反対側にも空間がある		ほとんどの人が日中はホールで過ごされる。ひそひそ話などでホール裏を使われる

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいき たい内容 (すでに取組んでいること も含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	大きいタンスやベッドは家庭から持って見える方 も見えるがほとんどの方は、施設で用意したも のを使われている、タンスは画一的にならないよ うに各居室で変えている 小物は家庭からできる限り持ってきていただい ている		心機一転ということで 新品を買われる方もいる ほとんど何も持って見えないは部屋が殺風景にな る
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	フロアは食事後等に喚起している トイレの臭いがホールにこもらないように配慮し ている 外気温との気温差があまり大きくならないよ うに注意いして冷暖房を使用している		職員の気温感覚ではな く、利用者さんを基準に気 温を考える 暑がりの方や寒がりの方が見えるため難しい
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだ け自立した生活が 送れるように工夫している	トイレや浴室は利用者さんの状態に合わせて手 すりを追加した 洋服掛けは利用者さんの身長(車椅子よりの高 さ)に合わせ変更した		イスや机は低いものをそろえたが、身長のある方 も見えるため、どちらに合わせるかが難しい
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるよ うに工夫している	居室の区別がつくように入口に個々の顔写真と名 前の掲示がしてある		施設の性質上で 居室が多くドアが多いため、区別 が付きやすいようにしなくてはならない
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるよ うに活かしている	庭に花を植えたり、畑のスペースもある。 畑よりも芝生の方が喜ばれたため、畑を縮小した 藤棚を用意し、下で涼めるようにしてある		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホームの開設より4年が過ぎ、当初と比べると地域住民に少しずつ受け入れられるようになりました。

昨年より夏祭りの参加、中学生の職場体験、秋祭りの休憩所と少しずつではあるが、地域のふれあいを実践している。

昨年は雨天のためかなわなかったが、今年の敬老会では屋外にも出店をだして近隣の子供さん達や職場体験の生徒さん達が気軽に参加できるようにする予定ている。